

2009.2.26

職業とは何かについて

野村幹弘

参考文献：職業とは何か 講談社現代新書 梅澤正 2008年

以下にポイントを記す。詳細は原著を参考にされたい。職業に対する考え方の視点としては斬新である。君たちの助けになれば幸いである。

はじめに

◎職業は「好き」「やりたい」といった個人的な感情だけで成り立っているわけではなく、もっと複雑な構成物です。(6p)

第I部 あなたは「職業観」を持っているか

1 「適職」こそ職業なのか

Q 数ある仕事のうち、自分にもっとも適した仕事が職業である。(15p)

◎若者にとって「自分に都合の悪いやつは悪者」という世の中ですから、自分に合わないものは視野の外です。(16p)

◎適職はあらかじめわかるものではない(19p)

1. さらに言うと、自分の能力(の限界)も、あらかじめわかるものではない

◎実際のところは、「職業が人を選んでいる」という側面もあるのです。(22p)

1. ドラフトで騒がれても、芽が出ず辞めていく野球選手を思えば、納得がいくか?

2 「やりたい仕事」こそ職業なのか

Q 就職とは、人生でいちばんやりたい仕事に就くことである。(26p)

◎「やりたい」と「やりがい」とは直結しないということです。(29p)

1. 統計的には出ていても、なかなか受け入れるのは難しい言葉かも。

3 「楽しく働ける仕事」こそ職業なのか

Q 楽しく働けてこそ職業である。(37p)

◎仕事のやりがいは、苦しみや困難を避けたいという姿勢からはけっして生まれません。(41p)

1. とはいえ、長期間満足感がない時は、職業を変えよとも言っている。

4 職業学習を深める

◎「自己分析よりも企業分析に時間をかけろ」と述べています。(51p)

第Ⅱ部 職業は私たちに何を与えてくれるのか

1 キャリアという考え方

◎（職業は）「社会生活」を営んでいる実感を持たせてくれることではないでしょうか。(56p)

◎働き方と生き方につながりをつけるのがキャリアデザインですが、どうつながりをつけたらいいのでしょうか。(59p)

1. まあ、これにさっと答えられるなら、この本を読む必要はないが。。。。

◎第一に、仕事には多彩な利点があるという指摘です。第二は、仕事が、、、苦痛となるのか喜びとなるのかは、「働き手の能力に応じ」という指摘です。(65p)

1. もちろん、苦痛を乗り越えて能力が向上することも多い。

2 職業は人と社会をつなぐもの

◎⑦一人前の社会人として、世の中から認められる。(68p)

1. 自分が学生時代は、この項目が一番の目的だったと思う。ただし、大学の教員は、どういう仕事なのか実感できる、良い例（ロールモデル）が身近にあったことは大きかった。

◎夏目漱石には、「道楽と職業」と題する評論があり、、、(74p)

1. この話は、別途書評をする。

◎職業が持つ社会的な意義には、「職業は働く人々の社会的な居場所を明らかにする」ということもあります。(79p)

1. 肩書きは社会との関わりの一面を示している。

3 職業により与えられる人生資源

◎職探しは、すべて「人生を作る職探し」であるべきだと思うからです。(89p)

1. 経済的資源
2. 教育的資源
3. 关系的資源
4. 威信的资源

第Ⅲ部 職業能力を考える

1 職業能力とは何か

◎職業能力とは、従来であれば間違いなく「専門的な知識・技術」を指しました。(104p)

2 いま脚光をあびる基礎力

◎基礎的仕事能力のうち、産業界が最近重視するのは、コミュニケーション力です。(112p)

第Ⅳ部 「リセット」と「リカレント」で人生を拓く

2 職選びは一回では終わらない

◎不本意な就職が多ければ、離職率が高くなるのは避けられません。(148p)

1. とはいえ、辞めて元より良い状況を作れる人は少ない。

◎三十歳を迎えるころともなると、人はこれまでが「仮の人生」だったのではないかという思いが募る。(152p)

1. これが、この本の肝だと思う。

以上